

令和5年度

授業改善プラン

- I 「目黒区学力調査」の概要
- II 令和4年度「授業改善プラン」の検証
- III 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン
 - ・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）
 - ・第1学年～第6学年

令和5年9月
目黒区立駒場小学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象児童数（本校）

	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
対象数	63人	80人	59人	66人	53人
実施数	63人	77人	59人	64人	52人
受検率	100%	96%	100%	97%	98%

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 児童の学習に関する意識

2年 意識調査、国語、算数

3年 意識調査、国語、算数

4年 意識調査、国語、算数、理科

5年 意識調査、国語、算数、理科

6年 意識調査、国語、算数、理科、社会、英語

(3) 実施日

令和5年4月13日（木）

Ⅱ 令和4年度「授業改善プラン」の検証

(1) 成果

今年度の学力調査の結果について、校内の平均正答率と区の平均正答率を比較すると、本校の第3～6学年においては、区の平均正答率と同等またはそれ以上の成果を達成しており、概ね満足できる状況である。特に、第6学年は英語を除き、区の標準値を上回っている。第3学年以上の算数科に至っては観点・領域において、第5学年の主体的に学習に取り組む態度を除いて区内の平均正答率を上回っている。これは、習熟度別指導体制のもとでの指導方法工夫改善や週2回の20分間の学習時間（ベーシックタイム）における国語科・算数科の基礎・基本の定着を図った取組の成果と考えられる。

全国の正答率と比較しても第3～6学年の各教科は平均値を上回っており十分満足な状況である。特に第4学年は国語科・算数科共に過去3年間の学力推移を比べると全国平均と比較し、上昇傾向にある。国語科の全国平均正答率を比べると、どの学年も同等、もしくは上回った正答率であり本校の研究主題である「40分授業午前5時間制を生かした創意工夫ある教育課程の開発」の取組が学力向上の成果につながったと考えられる。

(2) 課題

- ・第2学年の国語科・算数科に関しては、領域・観点において、区や全国平均値よりわずかに低く、これからの課題となる。
- ・教科別では、第6学年の英語科において、すべての観点・領域において区平均より低く、課題となっている。ALTや英語講師との連携を密に図り、授業改善に努める必要がある。
- ・正答率が高い中ではあるが、ここ最近の傾向として第2学年は区・全国平均との差が少なく、低学年での国語科と算数科指導の見直しやよりきめ細かい指導が必要である。
- ・各学年、全国平均と比較して各教科の学力推移が平均以上ではあるが横ばい傾向であり、ベーシックタイムでは、個別の学習到達目標を設定して効果的な学習を促進させていく必要がある。

Ⅲ 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

本校の授業改善に向けた方策

(1) 本校の授業改善に向けた方策

＜国語科＞

- ・ワークテストなどによる定期的なフィードバックを行い、弱点を特定し、ベーシックタイムの時間を利用して個別指導の機会を提供する。
- ・朝読書の時間や図書の時間では、計画的に読書指導を行い、児童の語彙力を増やしたり想像力を豊かにしたりする。また、意図的に教師による読書紹介の機会を設けるようにする。

＜算数科＞

- ・算数科では新しい単元が始まる前にレディネステストを実施して、定期的に児童の学習状況を把握し、調整を図っていく。
- ・算数科では、習熟度別学習指導の指導方法や指導体制を工夫していく。東京ベーシックドリル、デジタルドリルパーク活用して個に応じた指導のさらなる充実を図る。

＜各教科＞

- ・週2回20分間の学習時間（ベーシックタイム）を設定し、国語科・算数科の基礎・基本の定着を図ったり、「主体的に学習に取り組む態度」を育てる活動や「知識・技能」を高める課題を積極的に取り入れたりする。

- ・「こまば個人研究【こま研】」の取組を充実させ、自ら進んで探究学習ができるように個に応じた指導について研究を進めていく。その際、収集したデータを分析し、結果を解釈する力や研究の結果をプレゼンテーションやポスターセッションを通じたコミュニケーションスキルを向上させる。
- ・総合的な学習の時間を充実させるため、東京大学・駒場野公園等、恵まれた地域の自然環境を活用する。

(2) 本校の各教科における授業改善に向けた具体的な方策

- ・算数科は、全ての学年で習熟度別体制を整えているので、より一層指導内容を工夫していく。その一つは、指導形態や教材開発である。学級担任と算数習熟度別指導担当とが調査結果を踏まえた上で指導計画を再考したり、個に応じた指導を展開したりする。また、東京ベーシックドリルの活用も行う。
- ・国語科では、教科書や教材と照らし合わせて調査結果を分析する。また、その分析をもとに指導のあり方を再考し指導改善に努める。
- ・理科の学習では、学校で統一したノート指導を行ったり、観察などの指導では、設問や発問の工夫をしたりして、課題や視点を明確にした授業を行う体制作りを引き続き行う。
- ・学習に苦手意識のある児童については、引き続き駒場ベーシックタイムの時間や放課後に個別対応を行うことで、基礎的な学力を身に付けていけるよう計画・実践していく。

授業改善プラン

駒場小学校 第1学年授業改善プラン

	課題	解決のための手だて
国語	【領域:書くこと】 (観点:知識及び技能) ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方などを理解して、文章の中で使って。また、句読点の使い方を理解している。	・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」などを使って文章を書く場面を多く設定する。また、板書をマス目のある黒板に書くことで、ノートのマス目の使い方を丁寧に指導し、正しい表記の仕方の定着を図る。 ・書いたものを友だちと読み合う活動を取り入れることで、表記の方法を学び合う場面を多く設定する。また、読みやすさの点から、句読点のよさも伝える。
算数	【領域:数と計算】 (観点:思考力・判断力・表現力) ○数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりしている。また、文章を読んで式との関係を理解している。	・計算して答えを出すという基本的な計算方法の繰り返し練習に加え、日常生活における計算が必要な場面や、無意識のうちに行っている計算場面を教材化することで、算数と日常生活が近い関係にあることを児童が実感できるようにする。また、「算数のことば」を繰り返し使用することで主体的に学習に取り組む態度を育てる。

授業改善プラン

駒場小学校 第2学年授業改善プラン

	課題	解決のための手だて
国語	【領域:書くこと】 (観点:思考・判断・表現) ○自分の考えが明確になるように語と語や文と文との続き方に注意しながら文章を書いている。 【領域:読むこと】 (観点:思考・判断・表現) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	・日記や授業後の振り返りなど、書く機会を増やす。書いたものをクラスで読み合えるよう共有し、良いところを感想に書き合い、意欲付けにつなげる。その際に助詞の「は」「を」「へ」の使い方も意識させる。 ・音読を日常的に行う。 ・物語の読み取りの学習では、動作化を取り入れ、具体的に想像しやすくする。
算数	【領域:数と計算】 (観点:学びに向かう力) ○10のまとまりをつくって、繰り上がりのある加法を考えている。 ○加法を適用して、順序数と集合数の文章問題を解いている。	・瞬時に10のまとまりがつかれるように繰り返し復習し、数の概念を定着させる。 ・誰もが分かる問題から導入し、できる、分かる経験を通して授業への参加意識を高める。具体的な場面の観察を通して、集合数と順序数の使い方を結び付けながら数への理解を深めるとともに、数を用いて順序や位置を表すことができるようにさせる。

授業改善プラン

駒場小学校 第3学年授業改善プラン

	課題	解決のための手だて
国語	【領域:書くこと】 (観点:思考・判断・表現) ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。	・文章を書く時間を設定し、計画的に取り組ませる。 ・物語文の感想、説明文の要約など、異なるタイプの文章を書かせて表現力を広げる。 ・ペアや小グループで文章を共有して、互いに教え合う活動を取り入れる。
算数	【領域:測定】 (観点:知識・理解) ○身近にあるもののかさを推察して、適切な単位を使うことができる。 【領域:数と計算】 (観点:知識・技能) ○減法の文章問題を表した図を理解している。	・実際に物体を測ったり、触ったりして感覚的な理解を深める。 ・他教科や普段の学校生活でかさを推察する機会を積極的に設ける。 ・問題文をゆっくり読ませ、問題が何を求めているのか考えさせる。その際、重要な情報を強調し、問題を整理することを習慣付ける。 ・日常生活でどのように使われるかについて具体的な例を示し、抽象的な問題を現実に関連付けて指導する。
理科	【領域:物質・エネルギー】 (観点:思考・判断・表現) ○課題解決的な学習方法に取り組むことができる。	・関心をもたせるために、興味深い問題や実験を通して、日常生活から出発して理科の応用を説明する活動を行う。 ・学習課題に対して学習用情報端末での検索や書籍からの情報を収集して課題解決に取り組ませる。
社会	【領域:地理的環境と人々の生活】 (観点:知識・技能) ○身近な社会的事象から観察し、考察することができる。 ○社会的事象に対する興味・関心をもつことができる。	・目黒区の多くの文化施設、工場などの場所を紹介して、紹介マップ作りを通して、目黒区の特色や社会的事象について理解を深める。 ・地域や生活に即した体験活動を多く設定する。 ・教室で学習をする際には、ICT機器を活用し、動画や写真を通して実感をもって学習できるようにさせる。
外国語	【領域:数の伝え方】 ○数を尋ねたり、答えたりすることができる。	・歌や予想する活動、クイズ形式などゲーム性のあるアクティビティを通して、数や質問する際の言い回しを学び、コミュニケーションの素地を養う。

授業改善プラン

駒場小学校 第4学年授業改善プラン

	課題	解決のための手だて
国語	【領域：話すこと・聞くこと】 (観点：思考・判断・表現) ○互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。 【領域：我が国の言語文化に関する事項】 (観点：知識・技能) ○ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うことができる。	・話し合い活動では、互いの意見を出し合う学習を通して、共通点や相違点に着目する場面を設ける。 ・共通点や相違点を比較しながら、結論に導く場面を設ける。 ・語句の由来や慣用句を意図的に取り上げ、関心を高められるようにする。
算数	【領域：図形】 (観点：知識・技能) ○直線の垂直や平行の関係を理解し、それらを活用して平行四辺形やひし形、台形の特徴について理解している。 【領域：測定】 (知識・技能) ○身近にあるものの長さや重さを推察することができる。	・具体物を操作させたり、イラストを見せたりするなど、課題を視覚化する。また、日常生活との関連性を意識させる。 ・具体的な場面をイメージしながら問題を考えるようにさせる。日常との関連性も意識できるようにする。
理科	【領域：物質・エネルギー】 (観点：思考・判断・表現) ○金属、水及び空気は、温めたり冷やしたりすると、それらの体積が変わることについて、その程度には違いがあることを理解することができる。	・実験結果を基に、体積の変化と温度の変化を関係付け、金属や水、空気の性質について推論しながら、自分の考えを表現する場面を設定する。
社会	【領域：現代社会の仕組みや働きと人々の生活】 (観点：知識・技能) ○地図や関係機関が作成した資料などで調べたり、白地図や図表にまとめたりすることができる。 【領域：現代社会の仕組みや働きと人々の生活】 (観点：思考力・判断力・表現力) ○廃棄物処理のための事業の役割について、資料をもとに表現することができる。	・年表やグラフなど様々な資料を読み取り、気付いたことを表現する活動を取り入れる。 ・キーワードを基に、自分で学習内容をまとめる活動を設定する。
外国語	【領域：数の伝え方】 ○時刻を尋ねたり、答えたりする。	・アクティブな活動を通して、楽しみながら時刻を質問したり、答えたりする際の言い回しを身に付けられるようにする。

授業改善プラン

駒場小学校 第5学年授業改善プラン

	課題	解決のための手だて
国語	【領域:話すこと・聞くこと】 (観点:思考・判断・表現) ○意見の共通点に着目して、考えをまとめている。 【領域:情報の扱い方に関する事項】 (観点:知識・技能) ○漢字辞典の使い方を理解している。	・目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の相違点や共通点に着目して考えをまとめる活動の機会を増やす。また、自分の考えを記述する機会を増やす。 ・日頃より漢字辞典を引く機会を増やし、辞書を正しく活用できる力を向上させる。
算数	【領域:図形】 (観点:思考・判断・表現) ○身近にあるものの面積を推察している。 【データの活用】 (観点:思考・判断・表現) ○二次元表を利用し、問題を解いている。	・問題に取り組む際に、具体的な場面を想起させ、日常生活とのつながりを意識できるようにする。 ・二次元表の意味に照らし合わせながら、分かっている数字を手がかりに筋道を立てて求めていく方法について考えることを意識させる。
理科	【領域:物質・エネルギー】 (観点:思考・判断・表現) ○豆電球が明るくつくように、回路をつくることができる。 ○乾電池の向きやつなぎ方を変えたときの、電流の向きと強さを指摘できる。 ○ペットボトル内の水を凍らせたとき、ペットボトルがふくれて変形した理由を記述できる。 【領域:生命・地球】 (観点:思考・判断・表現) ○冷たい飲み物の入ったコップのまわりに水滴がついた理由を記述できる。	・実験結果から考察して導いた結論が、自分の生活のどのような場面で見られるか、活用されているかなどを単元終わりに考えさせ、身近にある自然現象への興味・関心や気付きを促すようにする。 ・実験結果から考察するなど、自分の考えを記述する機会を増やす。 ・既習事項を生かして考察するよう指導する。
社会	【領域:これからの食料生産】 (観点:知識・技能) 見方・考え方 位置的・空間的な広がり 既習事項との関連 ・様々な食料は日本や世界の各地から届けられていることについて理解している。	・世界各国の名称及び位置など、基礎・基本の定着に差があった場合は、学習用情報端末を活用し、繰り返し理解を図る。 ・複数資料の情報を比較・関連付けして考える活動を通して、根拠を大切にまとめさせる。
外国語	【領域:書くこと】 (観点:知識・技能) ○音声を聞き、活字体の大文字・小文字を正しく書くことができる。	・学級担任やALTが発音や表現の仕方を教えるなどの個別指導を行う。

授業改善プラン

駒場小学校 第6学年授業改善プラン

	課題	解決のための手だて
国語	【領域：書くこと】 （思考・判断・表現） ○目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりしている。 【領域：我が国の言語文化に関する事項】 （知識・技能） ○仮名及び漢字の由来、特質などについて理解することができる。 ○第5学年に配当されている漢字を正しく書いている。	・学習の振り返りを書く際に、書く時の視点を明確し、評価を適切に行う。 ・文字の特質を理解し、表音文字や表意文字について整理する場面を設定する。 ・テストなどで繰り返し練習して確認できる機会を多く設定する。
算数	【領域：数と計算】 （知識・技能） ○整数を偶数と奇数に種別することができる。 ○倍数について理解している。 ○最大公約数について理解し、それを求めることができる。	・分数・小数・整数の混合計算の際に、関連する既習単元の復習を丁寧に行い、小テストなどを通して繰り返し問題を解き、知識を定着させる。 ・倍数や約数を図や式、言葉などを使って探し出したり、最大公約数や最小公倍数の考え方を日常的な場面に生かせるようにイメージさせる。 ・テストで繰り返し復習し、確認できる機会を増やす。（全てに共通する手だて）
理科	【領域：生命・地球】 （知識・技能） ○子どもは受精してから約38週で産まれることを理解している。 （思考・判断・表現） ○結実するには受粉が必要であると考えることができる。 （思考・判断・表現）（主体的に取り組む態度） ○川原の石の写真から、観察された川原の場所を推測できる。	・小テストなどで繰り返し確認し、知識の定着を図る。 ・結実の時期を逃さず、生育状況により結実がずれるときは写真やデータを撮って見られるようにしておく。また、問題解決の場面において、何を確かめるための実験であるか押さえて考察するように指導する。 ・既習事項を確認し、観察した物やことを比較するためのポイントを押さえ、共通点や相違点から何が言えるのか考察するように指導を重ねる。
社会	【領域：国土の自然などの様子】 （思考・判断・表現） ○森林の役割と保全の大切さについて理解している。	・身近な問題と関連付けた内容を取り上げ、問題場面が写真や動画等で視覚的に分かるように示す。
外国語	【領域：聞くこと】（知識・技能） ○活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を身に付けている。 【領域：書くこと】（思考・判断・表現） ○例文を参考にしながら、第三者について、簡単な語句や基礎的な表現を用いて書いている。	・学級担任やALTが発音や表現の仕方を教えるなどの個別指導を行う。 ・単語だけでなく、単語を活用しながら英作文を書く機会を更に増やし、繰り返し書く練習を重ねていく。